

フューチャーフラワー基金第8期報告会

NPO 法人 日本・ネパール文化交流倶楽部

2013年12月15日(日)に、ネパールの学校にいけない子供たちを一对一で支援する「フューチャーフラワー基金」の第8期報告会が仙台市宮城野区で開かれました。日本人支援者及び会員8名と、ネパール人留学生3名が参加しました。司会進行は副理事長の鈴木涼子が担当しました。

1 理事長よりご挨拶

ご支援有難うございます。第8期の支援者はほとんど県外の方であり、開催も12月の押し迫った時期になってしまい、今日は少人数ですがわざわざお忙しい中有難うございます。実は、遠くから仙台にも何度も来ていただいたりネパールツアーにも参加し子供と直接交流を図ったり積極的に会員として協力してくださった方が先日ご逝去されました。生前はいつも子供の成長を楽しみにしていたことや、彼女の紹介で支援を始めた方々の子供たちのことまで気にかけていらしたことを思い、彼女の想いをしっかりと引継ぎ活動を続けていきたいです。

2 参加者自己紹介

第2期からご夫婦で女の子を支援している藤本さんは、ご自宅の壁にその子の写真を貼っていて、ちょうど同年代のお子さんが彼女の名前も憶え、どんな生活を送っているのかな、などと一緒にお話をしているというエピソードを紹介してくださいました。いつか報告会にも連れてきて親子でもっとネパールにいる子供を身近に感じていきたいそうです。



3 フューチャーフラワー基金における交流のこれまでの歩み

2009年の一人の支援者と一人の子供からスタートしたフューチャーフラワー基金ですが、今年10月からの第8期で支援者は84名、支援を受けて学校に通う子供は106名になりました(「歩み vol.4」参照)。

過去4年間で直接支援している子供に会いにネパールへ行った会員さんは9名になり、その方たちは実際に会ってみて、「一度会うとまた会いに行く楽しみができ、それまで元気であるよう頑張ります」「会う回数を重ねるごとに親近感が生まれもっとリラックスして交流が楽しめる」といった感想をくださっています。

残念ながら退会した支援者は計6名になりましたが、原因は会社の経営状況の悪化、既存会員の紹介で支援を始めたが様々な事情で連絡が不通になる方、又他界される例があります。

ネパール側で支援を中断した子供に関しては、一人はまだ中学生で結婚する年齢ではなかったが家族がお見合いで結婚させようとしていた折、自分で決めた人と結婚することを選んだ少女と、残念ながら農作業の忙しい時期に肺炎にかかり家族が気づくのが遅れ病院に着いた時には手遅れになってしまった少女の二人です。二人の保護者も、せめて中学まで教育を受けていればこのような結果を招かずに済んだのかもしれませんが。

今回はサンジブ代表により新たに8名のバグマティ県ダディン郡に住む学生が選ばれました。また、前年より継続して支援を受けられることになった48名の子供達への支援金も届けられました。交流倶楽部が支援する子供たちはネパールの中央部ダディン郡の農村に住んでいますが、そこからさらに西側は幹線道路や学校、病院等様々なインフラ整備が他より遅れていると言われていています。ネパール全体の就学年齢の子供の未就学率は19.6%(2010年)、識字率も65.9%(2011年)にとどまっております。未だ義務教育化が追いつかない状況です。

当基金では最低でも、子供が中学校を卒業するまでの支援をお願いしていますが、対象となっている子供たちは、厳しい家庭環境により留年や中途退学を余儀なくされ出遅れている、又は出遅れることが目前に迫っている子供達です。

	今期までの合計
支援を受ける子供	106名
支援者	84名
子供と対面した支援者	9名
退会した支援者	6名
支援中断した子供	2名

小学校の留年、中途退学を減らし、すべての子どもたちに初等教育を受けさせるのが課題！



フューチャーフラワー基金が助けなければ、初等教育さえ終了できない子ども達がまだまだ農村部ではたくさんいる

代表が6歳になった頃の1960年代初期、初めてマイディ村に小学校ができた。当時ネパールの識字率は10%以下であった。まだ高校はその時は無く、カトマンドゥまで行かなければいけなかった。最近では農村部でも高等部ができ、進級できる生徒は村で学ぶ。



近年では、農村部でも県庁所在地などに私立の学校はできつつあるが、授業料などは有料となり、すべての授業が英語で教えられる。国立学校は村人が協力したりして校舎を建て授業料は無料だが、国の認可と予算が下りるまで時間がかかる。又運営資金、教材、教師の数、そのレベルなども不十分な現状で、先生の給料の為仕方なく生徒から試験代などを徴収したりしている。払えない子供は当然受けられない。

日本と違い芸術や保健体育、技術、家庭科などの教科はない。日本のように学校給食があれば、免疫力と学力の両方の向上に役立ち、親も喜んで行かせるようになるのではないかという意見も出ました。

4

4 今期選ばれた子供達について

今回選ばれた8人の子供たちは、両親がおらず親戚の家でお世話になっている子供、母子家庭の子供、父親・母親どちらかが精神や身体に障害を持っていたり病弱、高齢で働けない等様々な事情を抱えている子供達です。中でも特に印象的だったのは、他県の他人の家で2年間も強制労働させられていた辛い過去から精神的に傷ついている子供、親が無教育の為自分の生年月日や年齢が分からない子供などもいました。

いずれにしても、大切なことはただ同情して辛く思うのではなく、今回面接し選ばれたことで今現在学校に行けており、未来に少しでも希望を与えているという事実です。今後とも皆様、末長いご支援、宜しくお願い致します。



5

5 法人としての今後の目標について

NPO 法人としてフューチャーフラワー基金にとどまらず、もっと広い地域社会との連携を図る事業を実施してまいりたいと思います。その為には、今後も支援者の増加を維持し、会員（個人・法人）、スポンサーなどを確保していく必要があります。

日本では、これまで会員様の口コミで日本全国に広がったことを踏まえ、年一度のNPO 総会や報告会、レポート、また新たに開設した公式ホームページを通して、会員一人ひとりの理解を深め、アウトプット（PR力）を促進していきたいと考えています。会員の皆様がそれぞれの地域や職場の集まりなどで、フューチャーフラワー基金のこと、子供たちのことをお話しただけだと思います（自己紹介のネタでも構いません）。

学校やPTAなどの教育機関、町内会、企業研修や県人会等への出張講演も計画していきますので、皆様の身近なところから、まだ支援の届かない子供達へ、交流と希望の輪が広がります様、是非お声掛けを心からお願い申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

今年は6月に仙台第一学院高校で、また11月には仙台市立向山小学校の6年生の授業から依頼があり、副理事長が外部講師として授業をしました。小学校には元留学生のプラティマさんもお話をしました。（写真は向山小学校）



地域のお祭りでの出店（カトマンドゥ商品の収益の一部は当法人の運営費に使われます）を兼ねたPR活動も行ってまいります。今年は仙台市国際センターで毎年開かれる「地球フェスタ」にNPO 法人となって初めて参加しました。約3,800人来場し、写真展と物販ブースにて、活動のPRと募金活動を行いました。（左写真）